

平成30年度 弘前市総合計画審議会議事概要 (第2回)			
日 時	平成30年8月28日 (火) 13時00分～14時30分		
場 所	弘前市役所3階 防災会議室	傍聴者	0人
出 席 者	委 員 (19人)	森会長、村松委員、生島委員、高島委員、藤田委員、淀野委員、島委員、清野(眞)委員、清野(智)委員、前田委員、鈴木委員、秋元委員、山形委員、米塚委員、石川委員、福士委員、一戸委員、三上委員、名越委員	
	事務局 (5人)	ひろさき未来戦略研究センター副所長、ひろさき未来戦略研究センター主幹、ひろさき未来戦略研究センター総括主査、ひろさき未来戦略研究センター主査、ひろさき未来戦略研究センター主事	
	その他		
会 議 概 要			
1 開会			
2 議事			
(1) 経営計画マネジメント評価の進め方について			
○主な質疑等の内容は以下のとおり。			
・今年度は過去4年間の総括的な評価を行うため、今まで審議会で出された意見を忘れてしまってまた新たに議論することにならないよう、処理されている意見については結構だが、過去の審議会で出された意見等をできる範囲でまとめて、提示していただけるとありがたい。			
⇒会議録等を作成しているため、どのような意見があったかまとめることは可能であるが、その中で処理されているものとされていないものを整理する作業には少し時間をいただきたい。			
※審議会終了後、追加資料【資料5】平成27～29年度の弘前市総合計画審議会における「弘前市経営計画」を作成し、平成30年9月3日付弘総審発第5号において委員へ送付済。			
○分科会の設置及び運営方針について			
委員の互選により、村松委員(会長職務代理者)をひとづくり・くらしづくり分科会座長に、森委員(会長)をまちづくり・なりわいづくり分科会座長とすることに決定した。			

(2) 地方創生関係交付金事業の評価について

○主な質疑等の内容は以下のとおり。

①弘前版生涯活躍のまち推進事業

・指標①を見ると移住者が7人とのことだが、どこから来た移住者か。指標②のボランティア参加者数は、ボランティアをしたと移住者の数ということか。

⇒移住者は首都圏からが多かったと記憶している。ボランティア参加者数は、移住者が子どもたちと一緒に地域と交流できるような場をつくるため、その受け入れ環境づくりに協力していただいた地域のボランティアの方の数である。

・その環境づくりは市が主体でやっているのか。

⇒事業主体はあくまでも民間の事業者で、そこに市や地域の方が参画している。

・指標①移住者数の実績値7人に対して、実績額6,843千円がどのように使われたか、29年度は目標値が高すぎたので31年度は目標値を下方修正するのかが、資料では見えていないが非常に大事な部分となる。28、29年度の実績値や、過去3年間のどのような取組が移住者7人という結果につながり、どのような取組が移住に対して効果的だったのか等、事業を評価するのであればより詳細な資料が必要だと考える。人材の確保や育成という視点で費用対効果を考えると、本当にこの事業が効果的で必要性があるのかという疑問も出てくる。

⇒資料については担当と検討させていただく。実績額6,843千円については、たとえば移住したら一人あたりいくら支給するなど、移住者に直接給付するものではなく、体験や居場所づくり等の地域での活動費や、生涯活躍のまち形成事業計画を策定するための費用である。

・逆に他の地域へ移住しているアクティブシニアを知っている。どのような理由・事情で離れてしまったかというデータを持っているか。転出する人にアンケートをとるなどして、ひろさき未来戦略研究センターで活用できるようにデータを持っておいた方がいいのではないか。

⇒アクティブシニアの方に限った話ではないが、移住者に生活の中で心配なことについてアンケートをとると、一番多い回答は「仕事」で、その次は「雪」という回答が多い。ただ、雪のことを理解して移住してくる方もいる。転出してしまう原因を考えたとき、地域とのつながりが持てなかった人が出て行ってしまうのではないかと考えているため、当該事業でも地域とのつながりや受け入れやすい環境づくりを大事にして取り組んでいる。

②都市と地方をつなぐ就労支援カレッジ事業

・指標①の就農体験者や指標②の新規就労者はどのような年齢層か。

⇒就農体験者は若い方が多く。大阪近郊で仕事になかなか定着できなかった若い方が、違う環境や自然の中でりんごを作りたいと弘前にいらっしゃる。新規就労

者は20代から高齢の方までとかなり幅広い年齢層の方が、ヒロロにある仕事・生活応援センターで相談から就労に結びついている。

③地域クリエイターと連携した新たな担い手育成及びコンテンツ等開発事業

- ・観光客とクリエイターとのつながりはどこにあるのか。指標②プロダクト及びコンテンツの商品数と指標③トップクリエイターと連携して地元人材を育成する地元クリエイターは、目標値も実績値も0個（人）となっているが、現在の進捗状況をお知らせいただきたい。

⇒ご指摘のとおり観光とクリエイターが結びつかないという課題はある。ただ、指標②と指標③は、成果が出るまで少し時間がかかり、どちらの指標も目標値が0個（人）というのが数年続くのは国に申請するにあたって印象が良くないので、観光客を増やしていくという指標①をその他にも立てている。指標②については、今年度までに試作品が完成しているので、来年度はその商品化に注力し、事業の展開を図っていきたいと考えている。

④ひろさきライフ・イノベーション推進事業

- ・事務局の説明に対し、委員からの質問・意見等なし。

⑤ひろさきりんご産業イノベーション推進事業

- ・事務局の説明に対し、委員からの質問・意見等なし。

⑥弘前さくらまつりにぎわい創出事業

- ・遅咲きの桜を鉢植えで育成して展示し、集客を増やそうとする取組以外に、なにか考えているものがあるか。桜を展示したからといって集客が増えるものではないので、この取組だけだと補助金を活用した成果として説明するのは弱いのではないかと。

⇒現段階で、これ以外にさくらまつりの取組として担当課から確認できているものはない。この事業は、補助制度というより取組に対し企業から寄附をいただいている事業なので、企業が寄附したいと思うような、より魅力的な取組を考えていかなければならない。

⑦その他

- ・今後の評価の前提として、もし審議会で地方創生に有効でなかったという結論になった場合、国からの補助金が打ち切られてしまうということはあるのか。資料を見ると、すぐには目に見えない成果もあるとは思いつつも、比較的评价が高いなど感じるところもある。

⇒目標値が達成できなかったからといって補助金が打ち切られてしまうことはないが、達成できなかったことを審議会で議論し、改善させていく必要があるので、遠慮なく色々ご意見をいただきたい。

3 報告

次期弘前市総合計画策定の進捗状況について

4 閉会